

令和4年度 自己点検・自己評価結果

1. 評価基準

「看護師学校養成所の自己点検・自己評価指針」（看護師等養成所の教育活動などに関する自己評価指針作成検討委員会まとめ）をもとに評価基準を改定した深谷大里看護専門学校改訂版（令和2年度改定）に基づいて令和4年度の自己点検・自己評価を実施した。

2. 評価点

4点：よく当てはまる・・・70%以上満たしている

3点：当てはまる・・・30%～70%満たしている

2点：あまり当てはまらない・・・30%以下しか満たしていない

1点：当てはまらない・・・満たしていない

3. 評価者

教職員全員（教員・事務）及び担当理事

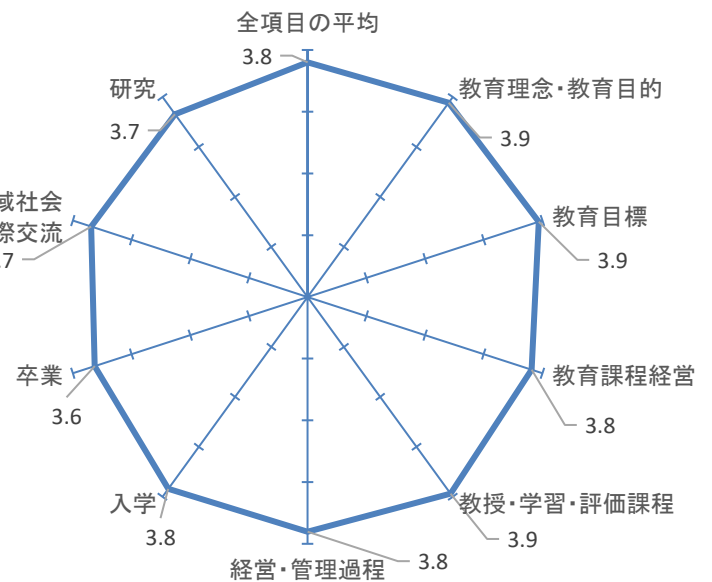
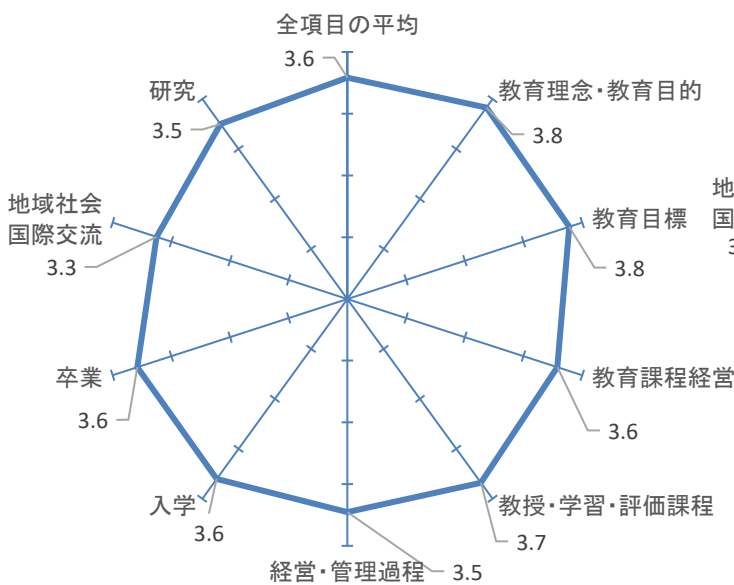
4. 結果

【3年課程】

【2年課程通信制】

3年課程 令和4年度

通信課程 令和4年度



5. 総括

- 1) 自己点検・自己評価は、良い学校作りを目指して実施しており、項目ごとに分析した結果を以下の3つの視点でまとめる。

(1) 評価点が3点以上で、学校として評価できる項目

I～IXすべてが3点以上であり、3年課程、2年課程通信制ともに自らの教育活動や学校運営について適正に取り組んでいるとの評価結果であった。

I 教育理念・教育目的・II 教育目標・III 教育課程経営・IV 教授・学習・評価課程の評価は、3.6～3.9と高評価である。

3年課程・2年課程ともに、カリキュラム評価及びカリキュラム検討を経て、新カリキュラムの申請、構築を行った。その結果、教育理念・教育目的・教育目標は一貫性があり、本校の目指すべき指針になっている事が再認識され、法的整合性や教育についての考え方の理解が深化した。

III 教育課程経営においては、科目、単元構成のレベルから整合性、連続性を考慮した看護師養成に必要な実践的職業教育が展開されている。また、新型コロナの感染拡大の結果、学会や研修会等のオンライン開催により、参加できる機会が増え教員の自己研鑽につながった。

IV 教授・学習・評価課程でも、学習内容に応じて授業形態を選択し、理論・知識・技術・看護者としての対象への配慮が統合して学べるよう全教員が工夫し、進度に応じた学習支援が行われている。また、新カリキュラムの構築に際して、これまでの授業の構成や教材を見直し、更なる授業や、演習の工夫等教員全員で取り組んだことが高評価につながったと考える。

V 経営・管理過程・VI 入学・VII 卒業・VIII 地域社会・国際交流・IX 研究の評価は、3.3～3.8である。

経営・管理過程は、学校設置者と管理者の考え方や組織の体制における役割機能は明確である。

入学は、入試委員会において選抜基準の妥当性を検証し、一貫性のある入学選抜を行っており、卒業は、卒業時の到達状況をとらえる方法が明確であり、卒業認定会議を経て認定されている。

地域社会・国際交流は、コロナ禍のため積極的な活動ができなかったが、地域の高等学校の職業教育等の要請に応じて感染対策をしつつ活動した。地域への情報発信手段としては、ホームページやインスタグラム等を通して教育活動や入試情報などの発信を行っている。

研究は、コロナ禍により多くの研修や学会がオンライン開催となったことを活用して参加する機会があり、研究協力依頼への協力等、研究に価値を置く職場風土が継続されている。

(2) 大項目では3点以上だが、中項目、小項目で確認された課題

III 教育課程経営：小項目＜教員が相互に成長できるよう自主的に教育活動についての検討や情報交換をする環境がある＞は3年課程 3.3 から 3.0、通信 3.8 から 3.4 と低下している。同様に3密の回避のため授業形態の変化や人の制限等の影響により授業見学、演習サポート等が制限されたためと考える。令和5年5月より、コロナによる制限が緩和され、自由に授業、演習が可能となった。今後は、両課程の垣根を超え、気軽に授業見学し合い、ともに授業研究に取り組み教員相互に成長しあう場を築いていく。＜臨地実習指導者と教員の協働体制を整えられるよう会議や臨地で調整している＞3.9 から 3.5 と低下している。コロナ禍で実習施設の職員の業務量が増え、学生への指導体制が不足している実情が見られている。また、複数の学校が同一の施設で実習するため、個別の対応が難しい現状であるためと考える。学生が十分に指導を受けられるよう、実習調整会議に加え、実習直前の時間を確保し調整を重ねていく。

IV教授・学習・評価過程：小項目＜学生のレディネスに適した授業内容や授業方法が実践されている＞が3年課程で3.8から3.5と低下している。これは、学生のレディネスの変化により、これまでと同様の学習効果を得ることの難しさを感じたあらわれであると考え。

(3) 自由記載内容から確認された課題

評価点は3.5以上で高評価であるが、自由記載内容からさらなる良い学校作りの課題を検討した。

V経営・管理過程では、人権の配慮が不十分であると感じているという記載があり、これに関して、ハラスメントセミナーの参加や相談窓口の整備と周知等、早急に対応していくことが必要である。令和5年度よりハラスメント防止委員会がスタートし、活動の充実を進めていく。